

## 1 研究テーマ

### つなげて考える子の育成

### ～「問いの連続」する単元構成と問いをつなげる教師の働きかけを通して～

## 2 研究テーマについて

### (1) テーマ設定の意図

新学習指導要領（平成29年3月告示）では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることや社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うことが求められている。私はこれまで、子どもたちが主体的に問題解決に向かえるように、身近な教材を選定したり子どもたちが関心をもちそうな資料を提示したりしてきた。しかし、子どもたちの主体的に問題解決しようとする態度を十分に高めることはできなかった。これは、子どもたちが社会科の授業において、自ら問いをもち主体的に問題解決に向かう力を十分に高められなかったためだと考える。子どもたちが、主体的に社会科の学習に向かうためには、問いの連続を意識させる必要があると考える。これまで、教師が一方的に教材を投げかけていたため、1時間単位の問いを解決する授業になっていた。子どもたちの問いを大切に、それらの問いを連続させ、つなげていくことで初めて主体的な問題解決が成立すると考える。

そこで本実践では、「問いの連続」する単元構成と問いをつなげる教師の働きかけを通して、子どもたちが主体的に問題解決に向かい、単元のつながりを意識した社会科の授業を目指す。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ①「問いの連続」する学習問題の設定と単元構成

単元の1次で単元を貫く学習問題を設定する。その後、その単元を貫く学習問題を解決するには何を調べる必要があるのか、子どもたちに問いを表出させる。また、その問いはどの順番で追求していけばいいかを決定する。子どもが単元のゴールに正対しながら問いの追求をするので、前時までの学習内容とのつながりを意識したり、新たに見えてきた問いの解決の必要性が生まれやすくなる。

#### ②新たな問いを生み出し、問いをつなげる教師の働きかけ

授業の終盤に単元を貫く学習問題や本時の◎（学習問題）について振り返る時間を設ける。本時の◎は解決することができたか、単元を貫く学習問題を解決するための新たな課題はないかなどを共有することで、子どもたちは、単元計画を見直すことになる。そこで、教師が子どもたちのファシリテーターとなり、子どもたちの問いを大切にしながら次時の◎を設定していく。こうすることで、単元の学習問題と本時の◎、次時の◎とがつながる。また、必要に応じて子どもたちの思考の安定に一石を投じる資料提示をしたり、発問を行ったりする。この場合も、教師の働きかけが子どもたちの思考に沿うものになるように心掛ける。

### (3) 研究テーマにかかわる評価

抽出児A児B児を設定し、授業記録やノートの記述から、抽出児が「単元のつながり」（新たな問いをもつ、次時の◎について自分の考えをもつ、前時までの学習内容と関連付ける）姿が具現化されたかを検証する。また、抽出児の追求の様相を分析することで、手立て①②は有効だったかということについても検証し、明らかにする。

### (4) 対象児の実態

#### 【A児】

自分の考えを進んで発表したり、ノートに書いたり、意欲的に取り組む姿が見られる。友達の発表もよく聞こうとし、友達の発表に対して「あ～なるほど」と言った反応を示す。しかし、自分の考えを練り上げる場面では、自分の分かることを羅列するだけに留まってしまう。

7月のスーパーマーケットに関する実践で、前時までのA児は「たまごが割れないため」といった内容の記述に留まったが、本時の振り返りでは、「たまごが奥にあるのは、他の商品を買ってもらうためでもあるし、割れないためでもあることが分かった。割れると儲からないしお客さんが食べられないから割れないための工夫。」と記述し、たまごが割れないことが消費者のためであり、それが原信（スーパーマーケット）の売り上げにつながっていると考えることができた。提示された店内マップをもとに買い物の経験や見学で見聞きしたことを想起したり、友達の発表をよく聞いたりしたことで、友達の発言や事象と事象とをつなげて自分の考えを練り上げられたのだと考える。さらに、A児は、原信の店長のインタビューを視聴した際に、「（自分たちの考えとは）ちょっと違う」と発言した。分かったことばかりに目を向けるのではなく、一度立ち止まり新たな問いをもつ姿が見られた。

本単元でも、7月の実践同様に、学びを視覚的に捉えられる掲示物を活用しながら火事からくらしを守るという社会的事象を多面的・多角的に捉え、単元のつながりを意識しながら、自分の考えを練り上げていく姿を期待する。

## 【B児】

自分の考えと友達の違いが違っていると「違うと思う」とはっきり言える子どもである。4月の単元「くらしの様子」では、ある子どもが「東側には、小さい店が多かった」と発言すると「違うと思う、東側には大きい店の方が多かった」と発言した。B児「東側にもたしかに小さい店はあったけど、他の地域では東側みたいに大きい店はなかった」という発言から、他の子どもは他地域と比べる中でその地域の特徴に気付くことができた。一方で、自分の考えと同じだったり、関心がもてなかったりする場面だと発言が少なくなる。

7月の実践で、たまごの陳列の仕方が他の商品と異なると主張した。これは「売りたい商品は目立たせる」という前時までの学習内容を踏まえ、他の商品の陳列の仕方と比較したのだと考える。振り返りには「みんなの意見もしっかり聞けたのでよかった」と記述した。授業中のB児の反応をつぶさに見取り、B児の考えを全体で共有したことで、B児の学習への関心が持続したのだと考えられる。

本単元では、学びを視覚的に捉えられる掲示物をもとに対話的活動を行う。「今、何について話し合っているか」が視覚的に捉えやすくなることは、7月の実践で見られたB児の友達の違いを聞きたいという思いに寄り添うことになる。B児の問いや聞きたいという思いを大切にすることで、B児が関心をもって学習に臨み、火災から自分やくらしを守るために、自分にできることを考えようとする姿を期待する。

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

火事からくらしを守る～ぼくたち、わたしたちにできること～（小学社会3 教育出版）

### (2) 単元の目標

- 消防署に関する各種資料や統計、実際に見学して調査したことを通して、消防署で働く人々が地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解することができる。（知識及び技能）
- 消防署の施設や設備の配置、緊急時への備えや対応などに着目して調査することを通して、消防署や地域の人々の安全を守るために活動をとらえ、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現している。（思考力、判断力、表現力等）
- 消防署などの地域の安全を守る働きや関係機関との連携などの理解や自ら考えたことを通して、地域の一員として自覚を深め、火災による被害をなくすために共に努力し、協力しようとする意識を高めようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

### (3) 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>消防施設・消防設備などの配置、緊急への備えや対応について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。</li> <li>調べたことを関連図にまとめ、消防署などの関係機関は地域の安全を守るために、相互に連携し緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。</li> <li>連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、結び付けたりして、関係機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、火災から地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災から地域の安全を守るための働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追求し、解決しようとしている。</li> <li>学習したことを基に、火災から地域の安全を守るために自分たちができることなどを考えようとしている。</li> </ul>

### (4) 単元の指導計画と評価計画（全14時間 本時7/14）

時	学習内容	○主な学習活動	・支援 評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>火事が起きた際の具体的なイメージを共有する。</li> <li>単元の学習問題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長岡市の火災発生件数や火事の写真や映像を見て、感想を共有する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>火事からくらしを守るために「だれが」「どんなこと」をしているのだろうか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主資料から自分たちが追求したい内容を明らかにし、単元の学習問題を設定することができる。</li> <li>【発言、ノート記述】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習問題をもとに、単元の学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習問題の予想を共有し、学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主単元の学習問題の予想を立て、学習計画を立てることができる。</li> <li>【発言、ノート記述】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署が119番通報を受けた際、消防士は1秒でも早く出動するための工夫を行っていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料映像をもとに消防士の動きについて気付いたことを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知資料映像をもとに、消防士は1秒でも早く出動するために工夫していることを理解することができる。</li> <li>【発言、ノート記述】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防士の早く出動し火を消すための工夫を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料映像から消防士が火を消すために大切にしていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知消防士の1秒でも早く出動するための工夫や、消防士は、日々、火事に備えて訓練をしたり道具の点検をしたりしていることを理解することができる。</li> <li>【見学メモ】</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防士は、火事に備えて日々訓練や道具の点検を行っていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署を見学し、早く出動するための工夫や火事に備えた取組を調べる。</li> </ul>	
6			

7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署が、関係機関と協力して火事から人々の暮らしを守っていることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災現場のイラストをもとに、通信指令室は誰に、どのような協力要請の連絡をしているかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思 火災現場の人々の対応に着目して、関係機関の活動について考えることができる。 【発言、ノート記述】</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は火事に備えて、消防設備を設置したり、消防署と協力して避難訓練を行ったりしていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千手小学校の中にある消防設備を調べる。</li> <li>Chromebook を使い、校舎図に消防設備の場所を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知 学校は火事に備えて防火扉や消火器、避難訓練を行っていることを理解することができる。 【発言、ムーブノート記述】</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の周りの防火設備を調べ、確実に消火するために数多くの防火設備が設置されていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習を行い、地域の防火設備を調べる。</li> <li>調べる際に、消防団の小舎があることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知 地域には、火事に備えた消防施設が設置してあることを理解することができる。 【見学メモ】</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防団は地域の人で構成されていること、消防士との違いを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央方面隊第一分団副団長鈴木さんへのインタビューをもとに消防士と消防団の違いをまとめる。</li> <li>長岡市消防団 PR 映像をもとに、消防団の活動内容を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知 消防団と消防士とは、所属している人や服装が異なることを理解することができる。 【発言、ノート記述】</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>火事の際、消防団は消防士の支援を行っていることを理解し、消防士の活動はより早く消火するためであったり、人の命を守ったりすることにつながっていることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火事の現場をイメージしたイラストやペープサートを使いながら、火事の際の消防団の活動について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知 消防団の火災現場での役割について理解することができる。</li> <li>思 消防団の活動が火事の被害を小さくしたり人の命を助けたりすることにつながっていることに気付くことができる。 【発言、ノート記述】</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防団の方は、自分の地域は自分で守ろうというつよい思いをもって活動していることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>副団長の鈴木さんのインタビューをもとに、鈴木さんがどのような思いで消防団に入団し活動しているかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主 学習したことを基に、火災から地域の安全を守るために自分たちができることなどを考えようとしている。 【発言、ノート記述】</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>火事から暮らしを守るために自分にできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習してきたことをもとに、火事から暮らしを守るために自分たちに何ができるかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思 火災から地域や自分自身の安全を守るために自分や家族にできることを選択・判断したりして、ワークシートにまとめることができる。 【ワークシート】</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>火事から暮らしを守るために家族でできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習してきたことをもとに、火事から暮らしを守るために家族で何ができるかを考える。</li> </ul>	

## 4 単元と児童

### (1) 単元について

消防士は、出動がないときでも消火活動へ備え、訓練や機器の点検を行っている。119 番通報を受けた際には、1 分 1 秒でも早く消火できるように各関係機関と連携している。また、学校や地域と連携して防火への取り組みを行っている。しかし、事前のアンケート「だれが、自分たちの暮らしを火事から守っていると思いますか」については、子どもたちの多くが消防署や消防士と答えた。まずは、消防署の働きの学習を通して、消防署は、警察や病院などと連携していることを理解させたい。さらに、消防署の働きから、消防団の活動へ目を向けていく中で、火事から暮らしを守るためには、消防士だけでなく消防団をはじめとした地域の一人一人の努力が必要であることに気付かせたい。そして、自分たちも地域の一人一人として、日常的に火事を起こさないために取り組まなければならない、という自覚をもつ姿を期待する。

本単元では、学区内にある長岡市消防本部を取り上げる。とらなりには防災公園があり、消防車両が行き来する様子を目や耳にする機会も多い。7 月の実践では、たまご売場の配置についての意味や価値を、販売者側と消費者側の双方の視点から多角的に考えた。前単元「事件や事故から暮らしを守る」では、事件や事故から暮らしを守る人々の働きについて多面的・多角的に捉えてきた。本単元で「火事から暮らしを守る」という社会的事象について学習することは、子どもたちがこれまでに獲得した多面的・多角的に社会的事象を捉える力をさらに伸ばすことができる教材である。さらに、消防署は近くにあるもののその働きについては曖昧で分からない部分が多いと考える。そのため、一人一人が問いをもちながら学習に取り組める教材だと考える。

### (2) 児童（生徒）の実態

社会科の学習には意欲的で、自身の生活経験や見聞きしたことをもとに自分なりの考えをもつことができる。一方で、教師が提示した課題には正対して取り組むことはできるが、自身の問いを解決しようとする意識が弱く、問いを解決するための手順を考えたり、新たな問いを見付けたりする力は弱い。

「店で働く人と仕事」では、原信の販売の工夫や保護者の買い物の仕方などについて、自身の買い物経験と関連付けて考えたり、保護者に聞いたりするなど意欲的に学習に取り組む姿が見られた。原信を見学した際には、店員さんの話を聞きながら一生懸命にメモを取っていた。見学後の学習では、店内のマップを提示したり、お客さんを模したマグネットを用意したりしたことで、買い物客の入店から会計までの動きをもとに原信の工夫を発表することができた。また、一番売れているたまごが売場の奥にある理由を考える学習では、消費者側の利点「たまごが割れないようにするため」と販売者側の利点「たまご売り場までの他の商品も買ってもらうため」との 2 つの立場から考えることができた。単元を通して、学習と生活経験をつなげて考えたり、社会的事象を多角的に捉えたりできるようになってきた。一方で本単元を通して見えてきた課題として、単元のゴールが曖昧で、子どもたち自身の問いを解決しようとする意識が弱かったことである。単元の学習

問題として設定した「原信で働く人は、たくさんのお客に買ってもらうためにどんな工夫をしているのか」は、何がどの程度分かれば達成されるのかが曖昧だったため、子どもたちは原信の売り上げを高めるための工夫をたくさん見付けようと学習に意欲的であったが、そこから新たな問いを見付け、単元の学習問題を解決しようとする姿は弱かった。

本単元では、単元の学習問題を子どもたちの問いを大切にしながら設定することで、単元のゴールを明確にする。さらに、何を、どの順番で調べていくかなど、単元の学習問題を解決するための手順を確認し、子どもが見通しをもって学習に臨み、自ら問いを持ちながら学習に取り組む姿を期待する。

## 5 本時の展開（令和5年11月7日実施）

### (1) ねらい

火災現場のイラストから必要な協力要請を考える活動を通して、通信指令室は状況に応じて関係機関に協力の要請をしていることを理解し、消防署はいち早く火を消したり市民の安全を守ったりするために関係機関と協力していることに気付く。

### (2) 展開の構想

本時は、火災現場のイラストに見られる人々の働きから、通信指令室が「どこに」「どのような」協力要請をしているかを考える。子どもたちは、「警察が道をふさいでいる」等のイラストから見て取れる情報を注目すると考える。そこで、その行動にはどういった意味があるのかを考えさせたい。「なぜ〇〇（関係機関）は～をしているのですか」と問うことで、イラストに見られる人々の働きが、いち早く火を消したりや被害の拡大を防ぎ市民の安全を守ったりすることにつながっており、火事からくらしを守るためには各関係機関との協力が必要なことに気付かせたい。展開の終末には、「火事が起きていないときも協力しているはずだ」という子どもの考えを拾い上げ、次時の◎を設定する。

### (3) 展開

	学習活動	子どもの追求と教師の働きかけ	□評価○支援◇留意点
問いの解決（35分）	○火災現場のイラストをもとに◎について考える。	<p>警察と協力していると思う。大きい火事だと他の消防署にも連絡して助けられていると思う。</p> <p>どんな火事かによるけど、けが人が多かったら、病院に連絡すると思う。</p> <p>事件や事故のときは、警察から消防署へ連絡がいったから、その逆もあるんじゃないかな。他にも連絡してそうだけど、分からないな。火事が起きた場所や火事の大きさにもよって変わってくると思う。</p> <p>◎119番を受けた通信指令室は、だれに連絡をして、どんな協力をしてもらっているのだろう。</p> <p>T 1 火災現場のイラストをもとに、通信指令室の隊員になって、どこに連絡するか考えてみましょう。</p> <p>電気会社に連絡すると思う。電線が切れて危ない。はしご車の邪魔になっちゃう。</p> <p>警察に連絡する。近づいたらけがしちゃうから、近付かないようにする。</p> <p>火を早く消したり、火事を広げたりしないためにいろいろなところと協力しているし、火事を関係ないと思っていたところにも連絡していることが分かった。</p> <p>【まとめ】 通信指令室は、いろいろな人たちに連絡して、火を早く消すためだったり、みんなの命を守ったりするために協力をしてもらっている。</p> <p>T 2 火事が起きていないときは、だれと協力しているのでしょうか。</p> <p>学校？避難訓練をしているし、消防署の人も来ていたよ。</p> <p>学校だと思う。避難訓練に消防士さんがきてお話していたよ。</p> <p>消防署の人が言っていた協力って、火事が起きたときだけじゃないと思う。学校とも協力しているって言っていた。避難訓練のことを言っているのかな。</p> <p>◎千手小学校は、火事にそなえて消防署とどんな協力をしているのだろう。</p>	<p>○本単元の既習内容や前単元の学内容を掲示し、つなげて考えられるようにする。</p> <p>○火災現場のイラストマップをもとに、通信指令室は誰にどのような協力要請をしているか考える。</p> <p>☑火災現場の人々の対応に着目して、関係機関の活動について考えることができる。</p> <p>☑消防署は地域の安全を守るために、関係機関と相互に連携し緊急時に対処する体制を理解することができる</p>
まとめ・ふりかえり（10分）	○本時の振り返りを発表し、次時の◎につなげる。	<p>T 3 振り返りと次回の◎に自分の考えを書きましょう。</p> <p>・ふり振り返り</p> <p>消防署はいろいろなところに連絡して、みんなが協力して火を早く消したり、みんなの命を守ったりしていることが分かった。</p> <p>協力することで、火を早く消したり、けがした人を助けたりすることができると思った。みんなで火事からくらしを守っている。</p> <p>・次時の◎の考え</p> <p>消火器を用意しておいて、自分たちでも火を消せるようにしている。これも協力っていうのかな。先生たちは使い方の練習してるのかな。</p> <p>避難訓練のとき消防署の人が来てお話をしてくれた。火事には気を付けてくださいねって消防署の人に話してもらったことも協力かな。</p>	<p>☑次時の◎について、自分なりの考えをもつことができる。</p>

#### (4) 評価

- ・火災発生時の連携・協力している関係機関の働きについて、関連図にまとめ、消防署などの関係機関は地域の安全を守るために、相互に連携し緊急時に対処する体制をとっていることを理解している。(知識・技能)
- ・火災発生時の連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、結び付けたりして、関係機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考えている。(思考・判断・表現)
- ・火災発生時の連携・協力している関係機関の働きについて、予想したり、学習を振り返ったりして、学習問題を追求し、解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

### 6 実践を振り返って

#### (1) 授業の実際(指導の実際)

##### ①「問いが連続」する学習問題の設定と単元構成(1、2、13時間目)

単元の1時間目に、火事に関する生活経験を共有した。消防車を見たことはあるが、実際の火災現場や消防士が消火活動を見たことがある児童はいなかった。そこで、長岡市で発生した火災の動画と模擬家屋燃焼実験映像を視聴した。「すごく怖い」「すぐ燃え広がる」「家の中にいたら死んじゃう」などの感想が聞かれ、火災の怖さや防火の必要性を共有した。そこで、教師が「事件・事故のときは、警察や地域の人協力してくらしを守っていたけど火事の場合はどうかな」と問うと、A児は「消防士さんが火を消している」と発言した。他の児童が、「動画には警察の人もいた」と発言した。その後も前単元「事件・事故からくらしを守る」での学習を想起して、「消防署も警察や地域の人と協力しているのではないか」といった発言はあったが、分からない点や曖昧な部分が多くあった。そこで、単元を貫く学習問題を「火事からくらしを守るために『だれ』が『どのような』ことをしているのか」を設定した。2時間目では、単元を貫く学習問題を解決するために調べたいことを出し合い、単元の学習計画を作成し、単元を貫く学習問題について「学習する前の自分の考え」を記述させた。13時間目には、単元の学習を振り返り単元を貫く学習問題について「学習した後の自分の考え」を記述させた。友達と今までの学習を振り返ったり、教室に掲示してある今までの学び資料を確認したりしながら記述する姿が見られた。

##### ②新たな問いを生み出し、問いをつなげる教師の働きかけ(7時間目:本時)

7時間目の終盤に本時の◎について、振り返る時間を設けた際、ある児童が「消防団についてまだ分からない」と発言した。次にA児は「教科書には、電力会社、市役所、放送局も何かしている」と発言し、「電力会社は教科書に何をしているか書いているけど、市役所と放送局は書いていない」と続けた。本時の◎について、まだ不十分な点があることを全体で確認し、次時の◎を設定した。

#### (2) 研究テーマに関わる評価

##### ①「問いが連続」する学習問題の設定と単元構成

以下は、抽出児が記述した単元を貫く学習問題の「学習する前の自分の考え」と「学習した後の自分の考え」である。

##### 【A児】

「学習する前の自分の考え」では、消防士や消防署に関する記述のみであったが、「学習した後の自分の考え」では、消防署と連携・協力している関係機関との関わりについても記述している。はじめは、消防団や警察、病院などの関係機関の働きについての意味や価値についての記述は見られなかったが、その後の友達との交流を通して、「早く消す」「人の命を助ける」という記述を加えた。これは、7月の実践でも見られた友達の発言から事象と事象をつなげて自分の考えを練り上げようとするA児の成長した姿である。これらのA児の記述や学びの様子が見られたのは、単元を貫く学習問題を設定し、自分たちで単元計画を作成し追求してきたことで、主体的に問題解決に臨み、1時間ごとの学習内容のつながりを意識できたためだと考える。

##### 【B児】

A児同様に、「学習する前の自分の考え」では、消防士や消防署に関する記述のみであったが、「学習した後の自分の考え」では、消防署と連携・協力している関係機関との関わりについても記述している。さらに、消防署と関係機関の連携・協力について「少しでも早く火を消せて人の命を守っている」と事象を価値付けている。この「早く火を消す」「人の命を守る」という言葉は、単元の3時間目に出てきたものであり、B児は、単元を通して、事象と「早く火を消す」「人の命を守る」という視点を関連付けながら学習してきたことが分かる。さらにB児は、7時間目の◎について「警察のときは、地域の人協力していたから今回も地域の人がボランティアなどをしているんじゃないか」と思い

学習する前の自分の考え **A児の記述**  
火事からくらしを守るためにだれが何をしているのか  
消防士さんが火を消している  
警察の人もいた

学習した後の自分の考え  
火事からくらしを守るためにだれが何をしているのか  
消防署と連携・協力している関係機関の働きについての意味や価値について  
早く消す  
人の命を助ける

学習する前の自分の考え  
火事からくらしを守るためにだれが何をしているのか  
消防士さんが火を消している  
警察の人もいた

学習する前の自分の考え **B児の記述**  
火事がおきたらどうしようか  
消防士さんが火を消す  
早く火を消す  
人の命を守る

学習した後の自分の考え  
学習していくと、思ったよりもいろいろ協力してたりたえば水道会社に水あつと上げてもらったりガスを止めてもらって火を早く消すふうをしたり消防団に協力してもらってまたすこし早く火を消して人の命を守っているんだと思いました。

ました。」と記述している。これは、前単元と本単元の学習内容の類似性に気付いての記述だと考える。前単元においても本単元と同様に、単元を貫く学習問題を設定し、自分たちで単元計画を作成し追求してきたことで、B児は、単元の中の学習内容をつなげて考える力だけでなく、単元に関わらずこれまでに学習内容もつなげて考えようとする力を高めることができた。

## ②新たな問いを生み出し、問いをつなげる教師の働きかけ（7時間目：本時）

### 【A児】

A児は、授業の終末に◎について振り返る時間を設けた際、何度か「まだ○○が分からない」といった発言をする姿が見られ、7時間目でも、「電力会社は教科書に何をしているか書いているけど、市役所と放送局は書いていない」と発言している。また、次回の◎について自分の考えを書く際には、◎に正対して自分の考えを書くことができた。毎回の授業で、◎について振り返る時間を設けたことで、A児は「自分は何が分かって、何がまだ分からないのか」を振り返ることができるようになったと考える。そのため、次の◎の解決の必要性が生まれ、◎に正対し主体的に問題解決に向かうことができたと考える。

### 【B児】

B児は、授業の終末の◎について振り返る場面で、自分の問いを発表する姿はなかった。しかし、A児や他の児童が「まだ○○が分からない」といった発言をすると、それに反応する姿は見られた。7時間目の終末、次時の◎についての自分の考えでは、「放送局は地域の人に危険を知らせている。どうしてか」といって、放送局は地域の人に危険を知らせることができるから。それで、気を付けようと思う人がいるから」と記述し、次時の◎に正対して記述できていることが分かる。授業の終末に◎について振り返ることは、7月の実践で見たB児の友達の考えも聞きたいという思いに応えることにつながったと考える。

## (3) 成果と今後の課題

### ①「問いの連続」する学習問題の設定と単元構成

単元の1時間目で単元を貫く学習問題を設定したが、子どもたちの発言を尊重するだけでは単元を通しての追求に耐えられる学習問題を設定するのは難しかった。単元の1時間目や2時間目では、予備知識もなく、子どもたちの問いは、「火の消し方」や「消防車」といった具体的なものである。単元計画にある◎を修正したように、単元を貫く学習問題も1次ごとに設定したり見直したりする機会を設けることで、より子どもたちの問いに寄り添った単元構成ができると考える。さらに、その単元で学ぶべき学習内容を初めに、子どもたちと共有する時間を設けることで、より単元のゴールを見据えた問いが生まれ、自分たちで単元計画をデザインしていくという意識を高められると考える。成果としては、自分たちの問いをもとに単元計画を作成したことで、常に単元のゴールを見据えて学習を進めることができたことである。そのため、今までの学習内容をつなげて発言したり、記述したりする姿が見られた。また、◎が単元計画や前時までに設定されているので、自主学習等で調べてくる子どももいた。

### ②新たな問いを生み出し、問いをつなげる教師の働きかけ

授業の終盤に◎について振り返る時間を設定したが、次時につながる問いを発言するのは一部の子どもたちだけであり、次時の◎が一部の子どもたちにしか解決の必要性を感じられないものになってしまった。そのため、次時の◎について自分の考えを書く際、◎に正対した記述ができなかったり、何を書けばいいか分からなかったりする子どももいた。今後は、◎について「分かったこと」「分からなかった」ことをノートに記述させ、それらを子ども同士で共有する時間を設けるなど工夫していきたい。また今回は抽出児を設定し、抽出児を中心に見取することで、学級全体の考えを把握するように努めたが、抽出児や一部の子どもたちの発言で授業が展開していくことがあった。ペアやグループでの話合いの場面を設定したり、意図的な指名をしたりして、発言が得意な子どもだけでなく、より多く子どもの考えを吸い上げるように工夫していきたい。また、タブレットで個人の考えを全体で共有したり、ホワイトボードを活用するなど、教師だけでなく子どもたちも互いの考えを見たり聞いたりできるような方法を考えていきたい。そうすることで、自分が考えつかなかった問いをもったり、友達の問いにも関心をもったりすると考える。自分の問いだけでなく友達の問いについても、正対して問題解決に向かえるような授業展開を工夫していきたい。

## 参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編」2018
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校社会」 東洋館出版社 2020
- ・北海道社会科教育連盟「『～のはずなのに、なぜ？』を教材化する社会科学習」 東洋館出版社 2022
- ・中越社会科研究会「子どもが追求する社会科 第5集 -主体的な学びを保証する問題解決学習-」 めぐみ工房 2018